

【中学生の部】独立行政法人国際協力機構 北陸センター所長賞
福井県立高志中学校3年 橋本 夏怜

国際協力中学生・高校生エッセイコンテストでの受賞、そして授賞式でスピーチさせていただくという貴重な機会をいただき、誠にありがとうございます。

「男女で異なる扱いや偏見にもやもやしたことはないでしょうか。」

「女の子だから結婚して子供を産むのが普通の幸せだ」と言われたり、「返事はおしとやかにしなさい」と注意されたりすると、私は反抗心がむくむくと湧いてきます。こうした日常生活の中にあるジェンダー差別に疑問を持ったことが、今回エッセイを書いたきっかけです。私はジェンダー平等を実現するために性差別的な言動に目を向けてほしいこと、ジェンダーフリーについて子供と話してほしいことを提案しました。

私は今年度の夏休みにジェンダーフリーを周知するためにパンフレットと紙芝居を自作しました。生物の性転換や家族の形など、多様な生態を紹介し、「性別にとらわれず、それぞれの生き方がある。」というメッセージを込めました。「性別って何だろう。」と考えたり、多様な生物やジェンダーに興味を持ったりするきっかけになってほしいと思ったからです。また、生物学的な性とジェンダーが同じものだと捉えられないよう試行錯誤して作りました。

秋には、この紙芝居を使って小学校低学年の児童に読み聞かせを行いました。「僕もこの生き物知ってるー!」といった声も上がり、子どもたちはとても好意的な反応でした。理解度を確かめるために行ったアンケートでは、「内容がよくわかった」「面白かった」と回答した児童が9割を超えました。

さらに、福井県立図書館で、自作した紙芝居と、館内にあるジェンダーや生物についての本を紹介する展示を作成しました。実際に、親子連れや若い人が手に取って読んでくれたという報告を受けて、とても嬉しく感じました。私の小さな行動が、人々の意識を変えて、ジェンダー平等へと広がってほしいです。

今回、このような賞をいただき、驚いています。私のエッセイがより多くの人に読まれ、人々がジェンダーに興味や関心を持つきっかけになるかもしれないと思うと、とてもわくわくします。同時に、表彰されたことに満足するのではなく、これからも、日常生活の中にある性差別に疑問を持ち、ジェンダーを学び続けて、自分の興味のアンテナを広げていきたいです。